

〔要旨〕

一橋大生の世界平和の実現可能性の信念

—社会心理学的視点からの平和意識研究

源氏田 憲一

戦争を終わらせるという平和運動を担うための、私たち一人ひとりの心理的要因として、どのようなものがあるだろうか？ 本研究は心理学的社会心理学の立場から「戦争を終わらせることができる」という信念、すなわち世界平和の実現可能性の信念を取り上げた。国立情報学研究所の論文情報ナビゲータを用いた日本の平和意識研究のレビューから、心理的な平和意識項目が少ないこと、平和意識の関連要因があまり検討されておらず、内容も政治的・歴史的なものが多いことが明らかとなった。先行研究での心理的な平和意識の検討から、平和への「希望」の側面をもっと研究すべきこと、特に戦争は終わらせることができるという信念が直接的に調査されておらず、また、そうした平和意識の規定因の調査が不足していることが指摘された。以上のことを踏まえ、一橋大生を対象に、世界平和の実現可能性の信念を測定し、その関連要因を社会心理学的なもの（社会関係要因や心理的要因）を中心に検討する調査を実施した。世界平和の実現可能性について、全体的にやや悲観的な見方がされていた。世界平和への実現可能性の信念は、従来の平和意識調査で主流だった政治的（イラク戦争への関心）、歴史的（アジア太平洋戦争への関心）な平和意識と関連していた。また、世界平和の実現可能性の信念を従属変数とする重回帰分析の結果、自己効力感、パーソナルな対人関係の重視度、居住地への帰属意識、アジアへの帰属

意識、世界への帰属意識、新自由主義的イデオロギーの各変数が有意な効果を持っていた。これらの結果が平和心理学の知見を参考に考察された。